

	分類	意見要旨
1	あんしんすこやかセンターへの支援	<p>あんしんすこやかセンターの「もの忘れ相談窓口」と、この(仮称)認知症在宅支援センターとの区別がよくわからない。また、アウトリーチ機能もあり、後方支援機能もあるという所の具体的なイメージがつかない。</p> <p>アウトリーチ利用後の支援はあんしんすこやかセンターに、ということであれば、(仮称)認知症在宅支援センターでの相談を踏まずとも、現行行われているあんしんすこやかセンターの相談・支援機能の範囲で必要なサービスへのつなぎや保健福祉課とのケア会議等で解決に向けていくという流れの方が、迅速な対応が図れるのではないかと。</p> <p>対応困難な事例についてはアウトリーチ機能を期待したいが、対象者の事前了解がないと訪問できないようなシステムにしないほしい。</p> <p>認知症の専門的な受診がなかなかスムーズにいかない実態があり、(仮称)認知症在宅支援センター機能の中で、地区医師会の診断連携クリティカルパス利用のためのかかりつけ医への説明等、実質的な支援も期待したい。</p>
2	あんしんすこやかセンターへの支援	<p>スーパービジョンの機能では、支援拒否・受診拒否の場合やキーパーソンが不在である等の困難事例について、あんしんすこやかセンターをサポートしてほしい。</p> <p>人材育成機能の中で、あんしん見守り事業の見守りボランティアに対してのステップアップや交流の場の提示などをしてほしい。</p>
3	あんしんすこやかセンターへの支援	<p>訪問サービスによる在宅支援機能について、必要に応じて随時に訪問を開始できるような事業にしてほしい。</p> <p>人材育成機能について、支援拒否の方やそれを悩む家族への具体的な支援方法をロールプレイなど実践的な形で指導してほしい。</p> <p>人員配置等が不明だが、このセンター1か所で世田谷区全域をカバーし、これだけ多岐に渡る機能を実際に行えるのかどうか疑問である。</p>
4	あんしんすこやかセンターへの支援	<p>認知症になっても在宅で生活し続けることができるよう、医療・福祉の連携の中核機関としてのセンターの機能に期待したい。</p> <p>またあんしんすこやかセンターの支援・バックアップを心強く感じる。</p>
5	あんしんすこやかセンターへの支援	<p>訪問サービスによる在宅支援機能について、期間や定員等を気にせず随時で相談・利用できるようになる事を期待する。</p> <p>センターの機能が充実し発揮されることを、本人・家族介護者はもちろん、あんしんすこやかセンターも期待している。皆が平等に利用できるセンターであって欲しいと願う。</p>

(仮称)世田谷区認知症在宅支援センター構想(案)区民意見一覧

	分類	意見要旨
6	あんしんすこやかセンターへの支援	<p>認知症の方の初期段階の支援課題として「本人同意」がある。特にセルフネグレクト等の事例では迅速な対応を求められるが、現状は時間を掛けて診断に繋げてからの具体的な支援となっている。アウトリーチ機能が活用しやすく、速やかに支援が進むことを期待している。</p> <p>基本はあんしんすこやかセンターでの個別支援が前提だが、困難事例において「(仮称)認知症在宅支援センター」の後方支援を受けることで事務作業負担が増えないようにしてほしい。</p> <p>あんしんすこやかセンターとして地区のかかりつけ医との連携を深める努力は行うが、認知症の診断や処方についての連携・調整機能を「(仮称)認知症在宅支援センター」も担ってもらえるとよい。連携支援の機会を通してあんしんすこやかセンター職員のスキルアップに繋がることを期待している。</p>
7	あんしんすこやかセンターへの支援	<p>地域包括支援センター運営協議会でも意見が出ていたが、世田谷は広いので各地域にランチのような機関をおいてもらえると相談や連絡がしやすい。</p> <p>認知症高齢者の増加に伴い、あんしんすこやかセンターだけでは対応しきれない状況に間違いなくなるので、後方支援機関が出来ることはとても心強いが、日頃から顔がみえて相談しやすい環境が大切である。</p>
8	あんしんすこやかセンターへの支援	<p>(仮称)認知症在宅支援センターが1か所なのは不安である。地域に出てきてくれるとのことだが、専門スタッフの数も限られ、小回りがきかないのではないかと。同センターで開催する相談等があったときには遠いし、直通的な交通機関がない地区もあるので行かれない。</p> <p>ケアマネジャーや介護事業者等から相談があったとき、どのように(仮称)認知症在宅支援センターにつなげればよいかわからない。</p>
9	あんしんすこやかセンターへの支援	<p>世田谷は広く人口も多いため、1か所の(仮称)認知症在宅支援センターで27か所のあんしんすこやかセンターや地域の医療・福祉など関係機関と連携していくという大変な事である。委託とあるが、事業を運営できる力量が必要であり、職員の構成や人数などをどのようにするのが課題である。</p> <p>あんしんすこやかセンターでは日々困難事例の対応に苦慮することも多いので、一緒に対応を考えて動いていただけるところまで期待したい。</p> <p>メンバーの職種は医療福祉の専門家が必要で、スーパーバイズするためには経験者が必要である。</p>

(仮称)世田谷区認知症在宅支援センター構想(案)区民意見一覧

	分類	意見要旨
10	あんしんすこやかセンターへの支援	<p>設置意図は理解できるが、既存の枠組みを変えてまで設置する必要性を感じない。</p> <p>量(今後増加する認知症の人)に対して、質(地域の対応能力)を向上することで支援をしていくことは理解できるが、質を向上させても介護保険サービスが区民一人一人にまで浸透するとは限らない。また、あんしんすこやかセンターの名前が全区民に十分浸透していない現状で、新たな機関をつくることは、かえって区民の混乱を招くのではないか。</p> <p>それよりも、あんしんすこやかセンターへの予算を増やし人員配置を増やす等行い、既存の枠組みの中で認知症の人への対応能力向上について考えた方が効率的である。</p> <p>イギリスのメモリーサービスをモデルにした認知症初期集中支援チームのように、設置することによりどのような効果が見込めるのか予測が知りたい。そのため(仮称)認知症在宅支援センターについてモデルとなっているものがあれば示してほしい。</p>
11	あんしんすこやかセンターへの支援 医療・福祉連携	<p>訪問サービスによる在宅支援については、早期にタイムリーな対応が必要な為、なるべく手続き等は簡略化して依頼しやすくしてほしい。</p> <p>家族支援については、各保健福祉課が実施している家族会等の内容と横の連携をもってほしい。</p> <p>あんしんすこやかセンターの後方支援が主な機能と役割のようだが、専門機関としての機能を備えてほしい。また医療と介護を繋ぐ役割も果たしてほしい。</p>
12	あんしんすこやかセンターへの支援 医療・福祉連携	<p>訪問サービスによる在宅支援機能では、訪問開始から6か月経過した後も必要に応じて支援を継続してほしい。</p> <p>関係機関と密接な連携を取り、協力して認知症の人や家族を支援するために、顔が見える関係づくりをすることが重要である。(仮称)認知症在宅支援センターとして、関係機関との連絡会議や勉強会等を開催する必要がある。</p>
13	あんしんすこやかセンターへの支援 コールセンター	<p>認知症の方を24時間365日サポートできる仕組みがほしい。</p> <p>本人や家族が支援を必要とするときは日中とは限らないため、夜間対応を含めて命の電話のような「認知症SOS」電話や、ネットで話せるような相談窓口、24時間つながるコールセンターが、民間機関ではなく公的機関として身近にあると安心である。</p> <p>また、あんしんすこやかセンターでは、認知症に関する特別な知識や対応技術を有する職員が不足している。講義中心の研修だけでは人材育成としては不十分であり、職員は日々悩みながら相談業務を行っているため、あんしんすこやかセンター職員の後方支援機能の充実も希望する。</p>

(仮称)世田谷区認知症在宅支援センター構想(案)区民意見一覧

	分類	意見要旨
14	家族支援	<p>今後の方針が明細に書かれている。</p> <p>認知症の人の介護のみならず、居宅で介護をしている家族介護者の精神的・肉体的・経済的・社会的負担とそのケアについても考える必要がある。</p>
15	家族支援	<p>検討委員会や区の強い熱意が感じられる内容で、今後にとっても期待している。</p> <p>家族支援についても、区が事業の一つとして大きく掲げている点について特に共鳴した。</p> <p>家族支援に関しては、身体介護も含めて様々な疾患の勉強やサポートが受けられるような事業であってほしい。</p>
16	家族支援	<p>この構想案を、もっと区民にとって解りやすい表現にしてほしい。</p> <p>認知症の家族を介護して、その中で困ったこと、是非わかってほしいことが2点ある。</p> <p>(1) 認知症の人は、他人からみると認知症とはわからない。病院でもいちいち説明をしなければならない。ヘルプカードや介護カードのように、一目見て認知症とわかるカードのようなものを普及させてほしい。</p> <p>(2) 家族会については、本人が自宅にいたりデイサービスの送迎時間にぶつかったりすると参加しにくい。また内容や顔ぶれによっては家族介護者の癒しにならないことがある。区の「家族のための心理相談」を利用したところ、個別にしっかりと話を聞いてもらえて気持ちがすっきりした。このような相談事業が増えるとよい。</p>
17	家族支援	<p>とても良い案だが、完成まで6年もかかるのは遅すぎる。</p> <p>今、支援を必要としている人や困っている人たちには間に合わない。</p> <p>介護疲れによる無理心中や、老老介護で共に熱中症で亡くなるなど、悲しい事件は後を絶つことなく次から次へと起こっている。すぐに着工し、一日も早いセンターの開設を目指してほしい。</p> <p>また、家族介護者の疲労軽減のため、宿泊機能を併設してほしい。</p>
18	家族支援	<p>「認知症」という言葉を本人の前で使えず困っている。他の言い方があると良い。</p> <p>今は在宅で介護しているが、その後の支援について充実して欲しい。</p>
19	家族支援	<p>認知症の方を介護する家族の方に広く周知するため、介護マークのポスターを区内の公衆トイレに掲示してはどうか。静岡県では高速道路のパーキングエリアのトイレにポスターが貼ってあった。</p> <p>あんしんすこやかセンターの認知症の相談・支援の質は向上していると思うが、家族会の立上げや運営等、集団活動に対する支援技術やファシリテーション技術の向上が必要である。</p>

(仮称)世田谷区認知症在宅支援センター構想(案)区民意見一覧

	分類	意見要旨
20	家族支援 徘徊対策 梅ヶ丘拠点へのアクセス	<p>家族会にも出かけられないとの声を聞くので、ショートスティなどのレスパイトケアを充実してほしい。</p> <p>迷子になる認知症高齢者は警察に保護されることも多いので、警察との情報の共有が必要。</p> <p>世田谷区は南北方向の交通の便が悪いので、梅ヶ丘までバス便を運行してほしい。</p>
21	医療・福祉連携 運営体制	<p>今後の在宅介護の充実に向け大きな一歩になるものであり、特に梅ヶ丘拠点施設のなかに(仮称)認知症在宅支援センターの整備が位置づけられたことは心強い。</p> <p>認知症と口腔機能の維持とは深いつながりがあり、認知症が進行し認知機能が低下することにより、摂食や咀嚼、嚥下機能等に支障をきたしたり、誤嚥のリスクが高まるなど深刻な状況に陥ることも少なくない。</p> <p>認知症に伴う摂食・嚥下障害に対処するには専門的な知識や技術が必要であり、東京都健康長寿医療センターの調査でも認知症高齢者の食行動の障害への対処法は確立されておらず、このことがケア提供者の負担の一因になっているのではないかと指摘されている。</p> <p>認知症の方の多くは社会的に孤立しがちであり、本人や家族の支援のためには医科・歯科の協力が不可欠である。</p> <p>構想案においても訪問サービスによる在宅支援機能を確立していくとの提案がなされているが、早急な取り組みを望みたい。</p> <p>専門的・技術的な視点から適切に助言や指示を行っていくには医療の専門家が常駐するセンターの存在が望ましく、センターからの情報提供に基づいて個別の医療機関が認知症の方の居宅を訪問し、診療に応じることが効果的である。</p> <p>(仮称)認知症在宅支援センターには、小規模で良いがある程度の治療設備を備えているとよい。嚥下内視鏡のような設備があることによって、応急の処置が必要な場合や自宅での処置が難しいときにすみやかに対処ができる上、センターが常に具体的な課題と接していることによって絶えずネットワークの改善と検証を行い、また情報とノウハウを蓄積することによってネットワークを実践的なものとして運営できる。</p>

(仮称)世田谷区認知症在宅支援センター構想(案)区民意見一覧

	分類	意見要旨
2 2	情報発信	<p>今回のように、区民や区内の介護事業所の職員等に意見を募集するような、開かれた機能を持ち続けてほしい。区民や区内の事業所で働く職員は、世田谷区の取り組みに期待し支えたい気持ちを持っている人が多くいる。意見募集の継続や、内容によっては協力者を公募するなどして、区民や区内の事業所との関係性をより身近なものとして保持し続け、一緒になって歩んでいけるようなセンターであってほしい。</p>
2 3	情報発信	<p>認知症の方や家族介護者が利用しやすいセンターを作ってほしい。</p> <p>家族支援や、技術支援・連携強化、人材育成機能などについては、これまで様々な機関が行ってきたので、(仮称)認知症在宅支援センター開設後のそれぞれの役割の違いを明確にして区民にわかりやすくしてほしい。</p> <p>訪問による在宅支援機能の対象者、職員体制や規模などがどのくらいになるのか明確になると、住民にとってわかりやすくなる。</p>
2 4	若年性認知症への支援 居場所づくり	<p>若年性認知症の相談、支援機能を充実してほしい。具体的には、若年認知症に関する区のサービスを一括で案内出来るコンシェルジュ(手続き一覧(メリット・デメリット含む)の照会が出来るような)の設置や、インターネットを活用した情報提供に力を入れる事が必要である(現役世代は、普通にパソコンを使用している世代であり、過去に関わった当事者の家族からも「ネットで検索した資料が山のように出てきた」と聞いた事があった)。</p> <p>若年性認知症の理解を促進してほしい。具体的には、区内にある企業や事業所(世田谷区役所を含む)の人事担当者及び産業医への啓発を進めるとともに、失職までの「間」をつなげ、次のステップへの準備期間とする事が出来るようにしてほしい。また、職域だけでなく、区内の小・中・高等学校・大学を通じて、保護者や教師、校医及び学生へ啓発したり、あんしんすこやかセンターと共同して町会等への啓発を進めてほしい。</p> <p>医師が認知症と診断した後に、次にどのような手当や相談機関を紹介すればよいか情報提供を行ってほしい。</p> <p>若年認知症の方だけでなく誰でも参加できる「認知症カフェ」を開催し、居場所づくりや本人の能力の活用、情報交換等を推進してほしい。</p>
2 5	見守り・孤立防止	<p>高齢者が最期まで円滑な生活を過ごし、孤立死を防ぐために、以下の6点を提案する。</p> <p>(1) 定期的な見回りと話し相手づくりの周知徹底(孤立させない)、及び買い物難民の防止。</p> <p>(2) 支援が必要な生活困窮者が、本人の意思に限らず生活保護申請受給が出来るようにする。(高齢の方々の中には、絶対に生活保護の世話にはなりたくないという意識が根強く、孤立死に繋がる危険性がある。)</p>

(仮称)世田谷区認知症在宅支援センター構想(案)区民意見一覧

	分類	意見要旨
25 (つづき)	見守り・ 孤立防止 (つづき)	(3)モラルハザードによる生活保護受給の適正化。(国民年金より生活保護受給の方が効率よいという方も多い。) (4)安価な入居施設の充実及び入居待機の解消。区営住宅や都営住宅への速やかな移住。 (5)前かご付き補助輪、ステッキ(杖)、車椅子の貸出の推進。 (6)ハローワークやシルバー人材センターへの登録推進。(喜々とした生きがいのある社会の構築、セルフネグレクトや認知症の進行の抑止)
26	区民活動 の拠点	認知症の方たちのサポートのために、地域の人達の研修やボランティアの活動の拠点となる部屋を確保してほしい。